

# 山口県建築士事務所協会 ドローン使った外壁赤外線調査講習 赤外線調査の特徴や方法学ぶ

た建築物の外壁点検、赤外線調査などについて学んだ。ロングライフビル推進協会（BELCA）が協賛。

はじめに、竹田述生専務理事が「建築物の定期報告制度が2022年度と25年度に改正され、打診による調査と目視による調査方法が法の中で位置づけられた。このため、ドローンによる赤外線を用いた外壁点検についての講習会を開催する。今後の点検業務の参考にしてもらいたい」などあいさつした。

その後、BELCA建築士上診断技術者講習委員会長で日本建築ドローン協会会長の本橋健司氏が「定期報告制度における外壁調査及びドローンによる赤外線調査の経緯」「定期報告制度における赤外線調査（無人航空機

による赤外線調査を含む）による外壁調査ガイドラインのポイント」と題して講演した。本橋氏は、「1989年に北九州市の公営団地で、外壁が落下する事故が発生し

た。その後、当時の建設省がタイル外壁等落下物対策専門委員会を立ち上げ、外壁を点検、調査して報告する制度ができた。従来は近接目視による点検だったが、法改正

されて赤外線装置や可視カメラ、センサーなどの新技術検査を使った調査、点検が可能になった」など定期報告制度の経緯を述べ、定期報告制度の変更点や非接触方式による外壁調査診断手法と調査基準、ガイドラインの位置づけ、赤外線調査の適用限界、調査実施者の資格明確化などについて解説した。

また、コンステック技術企画室長の佐藤大輔氏は、「ガイドラインを踏まえた赤外線調査における赤外線法の基礎と建築知識」「定期報告制度におけるガイドラインを遵守したドローンによる赤外線調査」と題し、可視画像による適用事例や赤外線法での外壁調査の事例、赤外線装置の特徴、ガイドラインのポイントなどについて説明した。

